

# 民主島根

2023年  
**7.16**  
第1429号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 松江でオンライン演説会 政治を「もたら変える」党の躍進を

### 穀田衆議員、大平衆院例、むらほ衆院1区が訴え

日本共産党の穀田恵二衆議員・国対委員長は8日、松江市のオンライン演説会で講演し、衆院比例中国ブロックで大平よしのぶ元衆院議員の議席回復、衆院島根1区のむらほえりこ予定候補の勝利を訴えました。

穀田氏は「共産党は憲法に基づく平和外交を求め、話し合いによる解決、紛争を戦争にさせないよう努力する党」と指摘。岸田政権が米国の戦略下で南西諸島にミサイルを配備し、中国を包囲する中、共産党は3月に提言「日中両国関係の前進の打開のために」を發表し「日中両政府を含め『その通り』といわざるを得



声援に応える（右から）穀田、大平、むらほ各氏（松江市）



拍手に応える（壇上右から）仁比、安達の各氏（益田市）

ない。真理と道徳で政治を動かす共産党の役割がある」と強調しました。大平氏は、衆院本会議の初質問で学費値下げを求めたとし、「学ぶ権利、生きる権利を守り、希望を持って夢に向かえるよ

### 益田 衆院比例議席回復、市議選勝利へ 仁比 衆院、安達市議が演説

日本共産党の仁比聡平衆議員は9日、益田市の演説会で、8月20日告示の益田市議選で再選をめざす安達みつ子市議の勝利、次期衆院選の比例中国で大平よしのぶ元衆院議員の議席を回復しようと呼びかけました。

子育て中の浅野茜さんと自営業の辺見百合子さんが応援演説。子どもが生まれるまで選挙に行つたことがなかったという

う政治を大もたら変える」と訴えました。むらほ氏は「私は5年前に共産党に出会い、本當の優しさと資本主義を乗り越えた先にある未来社会の展望に希望を持つ」と語りました。

浅野さんは「社会の課題を  
知ること一人ひとりの  
思いや行動は変わるし、い  
い方向に変わっていく」  
と述べました。

仁比氏は、投票率を上げたいとの浅野さんの訴えに  
「ええ、みんなで力を合  
わせば社会は変えられる  
という希望にあるので  
は」と指摘。国民の声が届  
かない自公政権に国民と  
ともに対決してきたのが  
共産党だとし、「今のひど

い政治をやめ、乗り越える新しい政治をつくらう」と党の躍進を呼びかけました。5期目に挑む安達氏は「コロナ禍に苦しむ市民の国保税減免に取り組み、

提出した申請書が一番わかりやすいと行政の書式に採用されたと報告。「どうしたら市民を救えるかの思いで取り組んだ。みなさんの願いを託してほしい」と訴えました。

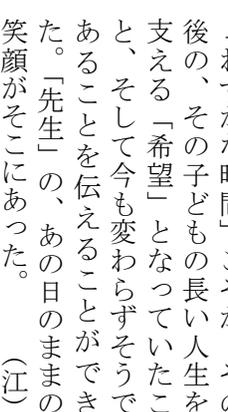
### 大國県議の二問一答



また、保育料の無償化については「県内6町1村では、保育料の無償化が年齢に関係なく実現されている」と強調。「すべの自治体で無償化が実現することが望ましく、医療費助成と同様に全体的な支援策を県としてさらに進めるべきだ」と強く求めました。

大國県議は、子育て世代から強い要望が寄せられている支援の充実と教育費の負担軽減について質問し、▽子どもの医療費助成の18歳までの無償化▽保育料の完全無償化▽学校給食費の無償化などを求めました。大國氏は「子育て支援の中でも、保護者からの要望が大きいのが医療費助成の拡充だ」と指摘。県内でも18歳までを対象とする自治体が増えており、対象年齢の拡大と無償化に向け、国への要望はもとより県制度のさらなる拡充も必要だ」と述べました。丸山達也知事は、市町村とよく相談するとし、「課題の解決に向けて取り組んでいく」と答えました。

大國氏はさらに、「義務教育は無償」とされているにもかかわらず、制服や教材費、給食費、部活動など多くの費用が保護者の負担となっている現状を指摘し、「学校給食費の無償化は早期に実現されるべきだ」と要求。野津建二教育長は「給食費の無償化は、少子化対策として必要」であり、経済的負担の軽減は喫緊の課題であるとの認識を示しました。



**鼓動** 「教えるとは、希望を共に語ること。学ぶとは、誠実を胸に刻むこと」この言葉は、教育に携わるものであれば、おそらく一度は耳にする言葉だろう。フランスのレジスタンス詩人ルイ・アラゴン（1897-1982）が詠んだ「ストラスブル大学の歌」の一節であり、実に熾烈な時代背景をもつ▼それは、1943年、ナチスによるフランス侵攻の中で行われた、ストラスブル大学における蛮行。数百名の教授と学生が銃殺され、犠牲となった。アラゴンの詩は、それを題材とし、多くの教授と学生を悼んだものであった▼その後、ストラスブル大学は戦火を逃れ、フランス中部に疎開したのち、過酷な中にも、新たに開学したという。その苦難を思う時、改めて、アラゴンの思いが胸に迫る。学府を守り抜き、困苦のもと新たな地で建学を成しえた空間では、教えることは確かに希望を語ることそのものだったろう▼時代も環境も違えど、筆者自身にも、その後の生き方に大きな影響を与えられた担任教師との思い出深い時間がある。共に泣き、共に喜び、懸命に関わり、ことを教えてくれた「先生」。まさに希望を共に語り、示してくれた「先生」だった▼今回、長い時を経て、その「先生」と再会する機会に恵まれた。「先生」は「一人の子どもの長い人生の中のほんのわずかな時間に関わっただけ」と謙遜されたが、その「わずかな時間」こそが、その後の、その子どもの長い人生を支える「希望」となっていたこと、そして今も変わらずそうであることを伝えることができ、「先生」の、あの日のままの笑顔がそこにあった。（江）